

科目	老年期障害理学療法学	担当	越智 亮	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

高齢化が進む昨今、理学療法の対象として障害を持つ高齢者が増加している。本科目では、高齢者の身体機能および精神機能の特性を学ぶとともに、老年期の骨、関節疾患、中枢神経障害、内部障害の理学療法評価・治療・リスク管理について学習し、高齢者の理学療法について理解を深める。到達目標は、老年期に好発する代表疾患に対する理学療法の修得である。

【履修注意】

講義資料としてスライドを用意する。配布するプリントやノートに重要事項を記録するよう努めること。積極的な質疑応答を期待する。講義のうち数回は実技を行うため、実習にふさわしい服装で臨むこと。

【評価方法】

出席状況、期末試験にて評価する。

【試験について】

期末試験で筆記試験を実施する。

再試験対象者の条件： 期末試験が60点未満の者を対象者とする。

【予習・復習】

講義毎の復習を十分に行ない、理解できなかった部分については、次の講義で積極的に質問すること。

【教科書】

細田多穂(監)、山田和政・他(編)。高齢者理学療法学テキスト—シンプル理学療法学シリーズ—, 南江堂, 2017

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ライフステージと高齢者像	老化・高齢者・定義・分類、『老い』の受容, 心理
2	加齢と心身機能変化	運動機能・感覚機能・生理機能・知能・記憶・人格
3	老年症候群	フレイル・低栄養・嚥下障害・尿失禁・認知症・うつ
4	高齢者の生活機能評価(1)	高齢者総合機能評価・各種認知症検査・日常生活動作・QOL評価
5	高齢者の生活機能評価(2)	FIM, BI, その他ADL評価法
6	健康寿命の延伸	介護予防, サルコペニア・ロコモ, 認知症対応
7	高齢者の筋力増強(1)	筋機能総論, (高齢者の)筋力増強法, 負荷設定
8	高齢者の筋力増強(2)	筋力増強法, 評価, 実習
9	高齢者理学療法の留意事項	一般的特徴, 廃用, リスク管理, 栄養管理, 運動負荷量
10	高齢者に特有の転倒・転落(1)	転倒基礎, 平衡, 姿勢
11	高齢者に特有の転倒・転落(2)	各種評価法, 実習, バランス, トレーニング
12	高齢者に特有の転倒・転落(3)	各種評価法, 実習, バランス, トレーニング
13	高齢者の骨関節障害と理学療法	大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症, 留意事項, ケーススタディ
14	高齢者の中枢神経障害と理学療法	脳卒中・Parkinson病, 留意事項, ケーススタディ
15	高齢者の内部障害と理学療法	糖尿病・心疾患・呼吸器疾患, 留意事項, ケーススタディ
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ